

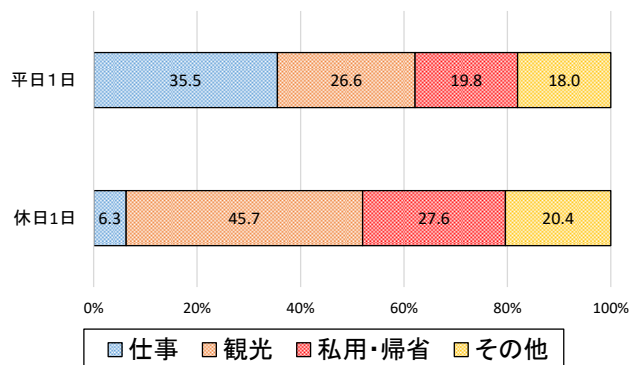
乳幼児を伴う都市間交通の課題把握と評価に関する基礎的研究

金沢大学大学院	学生会員	○南 貴大
金沢大学大学院	学生会員	早水 彦
金沢大学大学院	学生会員	村 一翔
金沢大学	正会員	藤生 慎
金沢大学	フェロー	高山純一

1. はじめに

日本では、少子化が深刻な問題となっており、子育て環境の向上が必要である。また女性の大学進学率や社会進出が増えてきており、地方を離れ、都市部で暮らす女性が増えている。そのため、都市部から地方へ帰省する際など乳児を伴う都市間移動を行う機会も増えている。全国幹線旅客純流動調査によると都市間移動の目的が「私用・帰省」である割合は、平日では19.8%、休日では27.6%を占めており、都市間移動の満足度をあげるうえで無視できない数字である(図-1)¹⁾。しかし、交通分野における乳幼児を伴う人々の支援策は優先席などのハード対策は行われているものの、十分とは言えない状況である。そのため、交通機関である航空・鉄道は乳幼児を持つ人の快適性を確保することが求められる。

本研究では、物理的、精神的に制約を受ける乳幼児を伴う都市間移動時の課題の把握を行い、今後、航空・鉄道分野が取り組むべき乳幼児を伴う移動を行う人々に対する支援策の提案を行うことを目的とする。



(注)旅行目的不明を除く。

資料)国土交通省「全国幹線旅客純流動調査」(2005年)

図-1 旅行目的別流動量構成率

2. 既往研究と本研究の位置づけ

本研究と同様に乳幼児を持つ人の交通移動に関する研究の実績は乏しい。

新福らは、東京都内を対象とし、乳幼児を伴う外出行動の実態についてヒアリング調査を基に把握し、乳幼児を伴う外出を支援する環境整備のための示唆を得ている²⁾。辰巳らは、地方都市における都市内交通に着目し、PT調査データ(外出率、生成原単位、代表交通手段、マストラ分担率、トリップ長、トリップ時間の項目)から乳幼児を持つ女性と持たない女性の交通行動の相違を把握している³⁾。また、福岡県に居住する人々を対象にアンケート調査を実施しており、乳幼児連れの人々の優先席利用及びベビーカーの使用、乳幼児のぐずり、航空機の乳幼児連れ優先搭乗、乳幼児連れ優先駐車スペースの設置に関する意識について分析を行っている⁴⁾。

以上のように都市内や地域内移動などの中距離移動や近距離移動時を対象としている研究はあるが、本研究で対象としているように航空・新幹線による都市間移動に着目した研究は筆者が調べた範囲ではない。

3. 調査方法

本研究では、乳幼児を伴う都市間移動の実態を把握するために、2018年3月に小松空港でモニター調査を行った。モニター調査では、まず、乳幼児を持ち、これまで鉄道を利用して地方から都市部に移動をしていた人を対象に、アンケートを行い、乳幼児を伴ったときの鉄道による都市間移動の課題について抽出を行った。その後、そのモニターに航空を利用して地

キーワード 乳幼児 都市間交通 航空移動 鉄道移動

連絡先 〒920-1192 石川県金沢市角間町 金沢大学 TEL 076-234-4914

方-都市間を移動していただき、再びアンケートを行うことで、乳幼児を伴ったときの航空移動の課題の把握を行った。モニター調査の様子について図-2、図-3に示す。



図-2 航空利用前のアンケート調査の様子



図-3 航空利用前のアンケート調査の様子

4. 調査結果に基づく課題の把握

乳幼児を伴う鉄道移動時の課題についてのアンケートでは、大きく「乳幼児がいるからこそ感じていた不便なこと」「乳幼児の年齢がいくつのときに最も大変であったか」について把握を行った。

乳幼児がいるからこそ感じていた不便なことについては、乗り換え時に最も苦労しており、理由として、乳幼児をおんぶした状態で階段上り下りすることが大変であること、乗り換え時間が短いことが挙げられた。最も苦労した乳幼児の年齢は2歳という意見があり、その理由としては新幹線の中でぐずることが多いからであった。新幹線の場合、あやすためにデッキが用意されているが、混雑時には使えないという不満もあった。

乳幼児を伴う鉄道移動時の課題についてのアンケートでは、大きく「航空移動を経験した結果、乳幼児がいるからこそ感じた快適だったこと」「航空移動を経験した結果、乳幼児がいるからこそ感じた不便だったこと」について把握を行った。

快適であったことに関しては、鉄道移動に比べ、総移動時間は長い、飛行機に乗っている時間は短く拘束される時間が短いことが挙げられた。不便なことに関しては、座席の間隔が狭いため、食事をとることが難しいこと、前の座席を蹴ってしまい周りの乗客に迷惑かけたことが挙げられた。

5. まとめと今後の課題

本研究では、モニター調査を行い、乳幼児を伴う都市間移動時における課題について、鉄道移動時、航空移動時に分けて把握した。

乳幼児を伴う場合、鉄道移動と航空移動の両者に課題があり、それぞれの交通機関に不便な点・便利な点があることが分かった。特に鉄道移動では乗り換え時に発生する課題、航空移動では座席が狭いことによる課題が多くみられた。

今後は、モニター調査の結果を踏まえて、乳幼児を伴い、鉄道・航空による都市間交通を行ったことがある人を対象に Web アンケートを行い、乳幼児を持つ親の個人属性ごとの課題を明らかにする。

参考文献

1. 国土交通省，長距離交通の現状と課題，<http://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/h20/hakusho/h21/html/k1133000.html> 2018年4月1日
2. 新福綾乃，十代田朗，津々見崇，乳幼児を伴う外出行動の実態に関する研究—東京・自由が丘及び代官山におけるケーススタディー，都市計画論文集，44.3 巻 (2009) p. 367-372.
3. 辰巳浩・堤香代子・香口恵美，T 調査データを用いた乳幼児を持つ女性の交通行動特性に関する研究，土木学会論文集 D3 (土木計画学)，68 巻 (2012) 5 号 p. I_583-I_588.
4. 辰巳浩，堤香代子，藤林航，吉城秀治，地方都市における公共交通等での乳幼児連れ利用者の行動に関する意識，交通工学論文集，1 巻 (2015) 2 号 p. A_179-A_186.